

報告書名：成人期における歯周ポケット形成の経年的発現および口腔保健指導における意義  
研究者名：藤井由希 山川悦子 山崎洋治 渋谷耕司  
所 属：(財)ライオン歯科衛生研究所

### 【目的】

“8020”というゴールを達成するために、成人期の口腔に対するケアが重要であるということは衆目の一致することである。しかしながら、一般に成人集団における口腔の健康状態に関する意識は高いとは言えず、同時に行政や企業における看護職など成人健康管理の実施側において「歯や口の健康」の優先順位は通常低いものと言わざるを得ない。そのような状況下、企業における成人歯科健診は、実施している企業は限られているが、成人の歯周病管理や口腔内の機能維持のために貴重な場である。ところが、歯科健診で歯周ポケットを有すると歯周病として保健指導を行っているが、歯周ポケットの存在は保健指導の立場からの意義付けは明確になっていない。歯周ポケットを保有する人では、他の部位でも歯周ポケット形成のリスクが高いと推察されるが、歯周ポケット形成の経年的な観察の報告は少なく、歯周ポケットが存在することの予防歯科学的な意義は明らかにされていない。そこで今回、産業歯科保健活動で得られたデータを活用して、歯周ポケットの発現実態を経年的に明らかにする。さらに歯周ポケット保有者に新たな歯周ポケット発生のリスクが高いかどうかを統計学的に検討し、予防歯科的に歯周ポケットの意義を明らかにして、成人集団の継続管理に役立てる目的で本研究を実施した。

### 【対象および方法】

対象は2工場で企業内での歯科検診を平成8年から平成12年まで5年連続して受けた107名を対象とした。口腔診査は歯周病についてはCPIを用いて行ない、*セフトコード*が3以上、すなわち4mm以上の歯周ポケットを持つ者を歯周ポケット有りとした。初年度には歯垢・歯石の沈着状態(OHI-S)および歯の磨き方の評価を歯科衛生士が行なった。生活習慣は睡眠・食事の規則性・ストレスの有無・喫煙の有無について受診者に記入式で回答させた。

### 【結果および考察】

初年度から5年度までの間、歯周ポケットは調査集団で増加し、特に39歳以下群で顕著な増加傾向が見られた。また発現部位は臼歯部に多く、前歯部に少なかった。性差では男性に多い傾向が認められた。次に増加傾向を解析したところ、同一個体における歯周ポケット保有の有無が、新たな歯周ポケット形成に高いオッズ比(18.1)を示し、非常に強い関連性が示された。また、調査したその他の項目についての関連は認められなかった。次に調査期間中の初発ポケットを調査したところ、年齢的には50歳以下の年齢層に初発のポケットがあることが多かった。以上のことから、歯周ポケットを保有することが新たな歯周ポケット形成の有力なリスクプレディクター(予測因子)であることが示唆され、産業歯科保健活動の対象集団における歯周病の予防管理に有益な知見を得ることができた。これらのことは、歯周ポケットを形成させないこと、および歯周ポケットの存在する人には一層の口腔ケア指導が重要であることを示唆している。